

人文学部卒業研究

「若者の〇〇離れ」

～メディアの言説と実態の比較～

題 目

指導教授

山本 明

印

提出年月日

2018年 12月 12日

学籍番号

HI15012

氏 名

刑部 剛

「若者の〇〇離れ」

～メディアの言説と実態の比較～

HI15012 刑部剛

要旨

本研究では近年頻繁に耳にするようになった「若者の〇〇離れ」について若者がどのように考えているのか、また実際にいくつかのメディアで若者が離れていると報じられたコンテンツを対象に「若者の〇〇離れ」についてどのように報じたのかを調査し、「若者の〇〇離れ」の実態を明らかにする。

第1章では、先行研究を参考に「若者の〇〇離れ」という言葉が出現した時期やきっかけなどについてまとめた。また、時代ごとに若者世代をカテゴライズし、若者がこれまでどのように世間から捉えられてきたかを明らかにした。

第2章では、質問紙による若者を対象とした調査の方法と課題について記述した。第1章の先行研究からは、これまでの世代ごとの若者論が明らかとなった反面、現在の若者がメディアで報じられた通りコンテンツから実際に離れているのか否かという疑問が浮上した。そのため、本研究では若者を対象に質問紙による調査を行うこととした。質問紙調査を行うにあたって、調査対象者である若者の年齢や居住エリアの偏りが生じる可能性があるという課題についてどのように改善するかも記載している。

第3章では質問紙による調査の目的および結果を記述した。調査の結果、メディアで報じられている「若者が離れているとされるコンテンツ」の実態を明らかにすることができた。また、「若者の〇〇離れ」に対する若者の考えや意識を明らかにできた。前世代の若者たちの価値観と現在の若者の価値観が不一致にあることが「若者の〇〇離れ」という言葉をはやらせる一因となったことが窺える。ただし、一昔前に比べると車やバイクといった高額なものは必ずしも求められるわけではないことが分かった。

終章では、本研究の結果について結論を記述した。結論としては、今回調査したコンテンツに限ってはメディアの言説のように、若者が離れているとは言いがたかった。また、車やバイクなどは昔のように趣味のひとつとしてではなく、単に移動手段として割り切っている若者が多い印象を受けた。これらの理由として、一昔ほどの収入が若者に入らなくなったことが原因にあると推測できる。また、本や雑誌、新聞などのコンテンツは近年普及したスマートフォンによって淘汰されつつあることが分かった。

今後の課題としては調査開始当初回答者の年齢や居住エリアに偏りが生じないように工夫してみたものの、中部エリアの回答者及び学生の回答者が半数近くを占めてしまった。また、今回の質問紙調査では現在の若者にだけ焦点を当てたものであったが、現在の40代～50代のかつて若者世代だった大人たちにも調査を行ない、今回の調査結果との比較をすることで、新たな考察を生み出すことができると考えている。

キーワード

若者の〇〇離れ、コンテンツ、若者、消費、メディア

目次

序章 はじめに.....	1
第1節 本研究の目的と意義.....	1
第2節 本論文の構成.....	1
第1章 先行研究の概観.....	2
第1節 「若者の〇〇離れ」とは.....	3
第2節 若者の消費実態.....	3
第3節 報じられる「若者の〇〇離れ」.....	5
第4節 若者はメディアにどのように描かれてきたか.....	6
第5節 若者論に関する先行研究.....	7
第2章 研究課題と研究方法.....	9
第1節 研究課題.....	9
第2節 研究方法.....	9
第3章 質問紙調査.....	9
第1節 目的.....	9
第2節 方法.....	10
第3節 調査結果.....	11
第1項 単純集計結果.....	11
第2項 分析結果.....	19
第4節 考察.....	20
終章 結論.....	22
第1節 研究成果の確認.....	22
第2節 本研究の反省と展望.....	23
参考サイトリスト.....	23
参考文献リスト.....	24
付録 質問紙調査票.....	i